

演はなかったが、参加者との懇談からは他にも補償光学の応用が種々検討されていることが窺われた。

波面測定法としては、シアリング干渉法(Itek:Vyce), シャック・ハルトマン法(AOA:Nagano, 天文台:田中, 阪大:実野, 理研:高遠), ロディエ法(通総研:高見), 焦点輝度法(北大:馬場)の講演があり、関連して、高速低雑音 CCD(東大:上野), 専用ハードによる高速 FFT(東大:上野), マイクロレンズアレー(天文台:鳥居), ニューラルネットによる位相の飛びの除去(電通大:武田)の講演があった。干渉法とシャックハルトマン法の得失に関しては、意見の分かれるところもあり活発な議論の交換があった。

波面修正素子のセッションでは、可変形鏡に関して、ロッド型ピエゾアレー鏡(Itek:Vyce, 日立:一ノ瀬, Laserdot:Gex), バイモルフ鏡(Laserdot:Gex, 通総研:高見), 薄膜鏡(通総研:高見)の講演があり、バイモルフ鏡とロッドアレー鏡の得失比較(Laserdot:Gex)の講演があった。さらに非線形光学効果を用いた位相共役鏡に関しては、その原理と天文学との接点(早大:上江洲), 位相共役シミュレーション(東京工芸大:伊藤), 位相共役による波面補償(石川島:小原), 位相共役によるレーザー高輝度化(大工大:吉田)の講演があり、天文学への応用の可能性について夢と悲観論が交錯した。

本研究会は補償光学に関して開かれた国内では初めての研究会であったこともあり、互いに普段接する機会の少ない分野の話聞くことができたという感想と、天文学や関連応用分野の技術発展のために今後もこのような研究会を続けて欲しいという激励を戴いた。これを機会に具体的な研究を始めようという輪がいくつかできたように思う。ここで生まれた関連研究者のネットワークが共同研究に発展することを願っている。参加者以外で集録を御希望の方は御連絡下さい。

家 正則(国立天文台)

第7回天文教育研究会の開催

例年の通り今年も天文教育研究会が8月1日から4日まで福島県の土湯温泉で開催された。今回は会員数の少ない地区での初めての開催であるので、これまでのように公共の施設を借りて自前で運営することがしいむずかしいので、若干費用はかかるが旅行業者に仲介してもらい温泉旅館での開催となったが、例年通り出席者はほぼ全員が合宿して、夜中までの議論が行われた。出席者は約100名で例年より少なめであるが、費用の事、距離の事を考慮すると大成功であったと言える。福島大学の中村泰久さんを中心とする東北地区の方々の努力のおかげであり、この紙面を借りて感謝したい。

今年のメイン・テーマは“天文教育に求められるもの—今まで欠けていたものは何か—”で、片平順一(堺市科学教育センター), 竹内峰(東北大・理)大野裕明(福島天文同好会), 小田桐茂良(県立青森高), 福島邦幸(仙台市・沖野中), 長谷川哲夫(東大・理)という各方面の6人の方が基調講演をしてくださった。そして、これまで聞けない視点からの話を多く聞くことができた。しかし、各講演者の間でメインテーマの主旨が徹底してなくて、相互の関連が希薄なのは残念であった。天文教育普及研究会の活動も年々活発になってきて、多様な問題点があることが明らかになってきたが、それらを一まとめにして解決するのはむずかしいことなので、各研究会での発表をしばり多くの人が意見を戦わせて、共通認識をもてるようにすべき時期になってきたと思う。

天文教育普及研究会では多様な問題に対応するために5人—10人のメンバーからなるワーキング・グループ(WG)を8個組織している。各WGのメンバーはかなり活発に活動して、今回の研究会では2つのWGの成果が冊子の形で提出された。プラネタリウムWGはプラネタリウム館の設立の際に指針となるレポートをまとめて116頁か

らなる“教育のためのプラネタリウム—設置についての基本的な考え方—”という本を研究会で製作した(1冊実費500円で販布)。観望会WGは観望会に必要な知識、準備、実行例などをまとめて、恒星社厚生閣から178頁からなる天体観望ガイドブック“宇宙を見せて”を出版した(1冊定価2678円)。

1991年秋の日本天文学会秋季年会から各年会の折に当研究会と日本天文学会の共催するフォーラムを開催している。それぞれの会での論議は活発に行われているが、1992年春、1992年秋のフォーラムの内容をまとめたものが75頁からなる“天文教具”(1冊実費300円で販布)と20頁からなる“宇宙を学べる大学はこんなにある”(1冊実費100円で販布)として当研究会で製作した。

このように実体のある成果となってきたものもあるが、学校における指導要領の問題や天文データの一般へのスムーズな提供方法、最近増えてきた公共天文台への在り方、光害問題などまだまだ議論を積み重ねて、共同の目標を見いだし、協力してその方向に進むためにかかなりの努力が必要なテーマが存在することもはっきりしてきた。

当研究会では今年度より整備された新会則が発行した。これまでのように数人の世話人が会の日常活動をお世話するのではなく、会長、副会長、地区運営委員、分野運営委員がそれぞれのテーマに責任を持って議論を盛り上げる体制へと移ろうとしている。さらに、会誌の編集委員会も設立され、より充実した情報交換、意見交換の場も作られつつある。

今回の研究会には日本天文学会員の研究者に何人も参加してもらった。日本天文学会員の中にも天文教育に関心を持つ人が徐々に増えてきたことは幸いなことである。多方面の議論を通して、より良い協力関係を保っていききたいと思う。

なお、本年度の第7回天文教育会集録(一冊実費2000円で販布)を含め、当会が製作した冊子を希望の方は、自身の住所氏名を記入し240円切手を貼った封筒を同封し、所定の費用分の60円前後の切手を同封して、希望の本の題名を記して、当研究会(〒181東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内天文教育普及研究会)に申し込んでほしい。

磯部琇三(国立天文台)

月報だより

日本天文学会評議員候補者選挙に関する公示

選挙管理委員会は、1994年の総会に推薦される改選評議員(任期1994年～1998年)候補者の選挙について、定款第19条及び評議員選挙施行細則(以下細則という)の規定に基づき、下記の通り公示する。

記

1. 選挙権及び被選挙権を有するものは、この公示の時点における特別会員である。ただし被選挙権については非改選評議員(任期1992年～1996年)であるものを除く(細則第3条による)。
2. 上記有権者には、有権者名簿及び投票用紙を別に発送する(細則第4条による)。
3. 投票は、10名以内の無記名連記とする(細則第5条による)。
4. 投票期間は、1993年12月3日から1994年1月10

日(必着)までとする。

5. 選出された候補者の名簿は、1994年4月20日発行の天文月報(1994年5月号)にこれを発表する(細則第7条による)。
6. 投票の細則に関しては、上記2の投票用紙の発送に際して、これを通知する。
以上
1993年11月20日

評議員選挙・有権者の名簿について

日本天文学会では、評議員選挙における有権者名簿の作製にあたり、名簿の訂正を前回通り秋季年会会場での名簿提示および選挙管理委員による校正で行いました。しかし、名簿の訂正をより確かにするため、天文学会へ所属変更の手続きをされていない方は速やかに当学会へご連絡下さるようお願いいたします。

注意：投票用紙の発送は、1993年11月20日現在の会員原簿の住所によりますから、その後変更等のある方